

喜歌劇『伯爵夫人』

マリツア』



〈あらすじ〉

ウーラの没落貴族タシロは身分を隠し、ブタロスタ郊外のマリツアの領地で財産管理人としていた。そこへ長い間、館を留守にしていた伯爵夫人マリツアが、ジュハン男爵と婚約したとの知らせに駆けつけた。ジュハンは財産目当ての男性を退けるための架空の人物だったが、そこへ存在しないはずのジュハンが現れたので、騒動が持ち上がる。タシロとマリツアはお互いに責めあうようになるものの、今は管理人と伯爵夫人という立場のらぶらぶ間柄なので、二人の仲はなかなか進展とみせない。一方マリツアへの思いを胸にやってきたジュハンにはタシロの妹リーガと相思相愛にみる。しかしマリツアはリーガをタシロの恋人と誤解し、大勢の人々の前で彼を侮辱してしまう。タシロは真実を歌う。可憐な誤解だったとマリツアは悟る。自尊心を傷つけられたタシロはマリツアのもとを離れる決心をし、マリツアの館を後にする。彼が去ったばかりで真実の愛に気づいたマリツアは彼のもとを追う。そこへ裕福な伯母ボツエーナ伯爵夫人が現れ、控当に入っていたタシロの家を買い戻したと告げる。マリツアとタシロ、リーガとジュハン、の二組のカップルは愛の喜びを歌う。

参考：イギリスの喜歌劇
『伯爵令嬢マリツア』序曲 | げんのかみ

